

優秀賞

## 「がんばる」という名の思考停止

京都市立堀川高等学校 1年 中田 和希

「がんばりますす！」

ストレス社会に生きる私たちにとって、この言葉は決め台詞のようになり、その姿こそ、美德だと称えられる。そんな「努力大国」日本は、主要先進国の中で最低の労働生産性を記録している。

例えば、与えられたミッションを、誰にも頼らず一人で乗り越えることが格好いいという風潮、そういう「非合理」に一生懸命になっているのだ。そのおかげで、労働時間の長さや睡眠時間の短さはトップクラスである。

このような社会ができたのには、多くの原因がある。中でも私は、学校教育の問題点を指摘したい。勉強に部活動、習い事と学生は非常に忙しい。かつて私もそんな時期があった。睡眠不足に悩み、先生に相談した時言われたのは

「がんばれ！」

のたった一言。何の解決策も得られず、残ったのは一人で何とかしなければならぬ、という孤独感だけであった。とはいえ、教師は教師でがんばっている。ブラッくな労働環境で無理をするのはもはや日常だ。そう、日本人は壁にぶち当たった時の対処法として、「がんばる」ことしか教えてもらえないのだ。

目の前に壁が立ちはだかった時、仲間や、その壁の攻略法を熟知するプロを頼ってもいいし、ときには壁に背を向けて、堂々と逃げてもいい。そういう、柔軟な思考が育まれる環境づくりこそが、社会の基礎を築く学校教育において、必要なことだと私は思う。

もしも今、壁を前に苦しんでいたら、「がんばる」と思考を停止させないで、無限にある選択肢を探し続けてほしい。そして、最後に下した決断を応援し、手助けする社会であってほしい。私は、常に最善の選択を追い求め、他人の決断を応援し、苦しむ人の力になれる、そんな人間でありたい。